

良人教育十四種

岡本かの子

青空文庫

(1) 気むずかしい夫

何が氣に入らないのか、黙りこくつてむつつりしている。訊いてもいっては呉れないで、渋い顔をするばかり。従つて家内中で腫ものにも触るような態度を取り、そばを歩くに、足音さえも窃むようになる。こういう性質は神経衰弱その他生理的な病氣が伏在している為めに來ることもあれば、当人の我儘から來ることもある。病氣なれば氣の毒、早速医者の手にかかるがいいが、もし我儘だったらあんまり卑屈にへいへいしていると、却つて増長させていけない。正しいことは相当主張し、快闊に、はたからその不機嫌を吹き散らしてしまふがいい。不機嫌は当人

も持てあましているのだから、はたからのひよつとした誘いで氣が取直せ、当人も助かることがある。

(2) 短氣な夫

しじゅうイライラしてちよつとすることにカンシヤクを起す。この性質に二つある。外では猫のようにおとなしく言うべきことも胸に畳み、そのシコリを家へ持越して爆発させるものと、もう一つはどこでも短氣でカンシヤクを起すのである。前の方のは臆病で氣の毒な性質の人ゆえ、まあまあ我慢して家でカンシヤクを起さしてやるのが愛だが、後のは持前の性質ゆえ修養とか信仰とかを勧めて、根本的に直すのが愛である。一たい短氣

な人は速^{スピード}力が氣に入るのだから何でも手つ取り早く先手を打つて、先に望むことをしてやれば悦^{よろこ}ぶものだ。

(3) 病^{びょう}身^{しん}な夫

痼疾^{こしつ}のあるのは別だが、そうでなくて年中あつちが悪い、こつちが悪いとぐずぐずしている人がある。多くは神経質で思い過^すしの人に多い。一^{いっ}しよになつて心配してやらねば不親切だといつてヒガむし、そうかといつて心配すればキリが無^ないし、仕末^{しまつ}に悪い。心機^{しんき}一^{いっ}転^{てん}ということもあるから、朗^{たから}かに奮^{ふん}闘^{とう}的な氣持ちになれるよう、思い切つて生活を革^{かく}新^{しん}するとか、強い刺撃^{しげき}を与えて心境を变化させるとか、妻自身確^{かく}信^{しん}と元氣を持つて助^{じよ}勢^{せい}する

がいい。

(4) 潔癖な夫

硝子窓ガラスがちよつと曇くもつていても気にし、障子しょうじのサンにホコリが溜たまつてやしないかと、指の腹で擦こすつてみる。ひどいになると一日に五六度オキシフルか、昇汞水しょうこうすいで手を消毒しないと、落おちついて仕事が出来ぬできというようなのがあつた。悪いことではないが兎とに角かくうるさい。また精神上の潔癖家として無暗むやみに人を毛嫌けきらいするものもある。あいつはオベツカ者だからとかあいつはウソ吐つきだとかいって、口も利きかぬ。そんなことをいった日には世間せまが狭くなるばかりだから一つ気を大きく持たせるべし。

(5) 頭あたまのよすぎる夫

どうせ見透みすかされ尽つくすのですから、なまじい夫おとこに対する心こころのつくりかざりをせず、正直まことに無邪氣むじやきにともともに暮くらすべし。

(6) 交際べた下手な夫

交際べた下手な夫おとこを持った妻つまは、相手の人ひとが夫おとこの氣象きしょうを呑み込むまで、妻つま自身がまめまめしく客きやくにかしずき、その場の調和てんわをたもつこと。

(7) 学者がくしや肌の夫

学者は日常他人に教示きようじする癖くせをもつて暮すくら。その気持ちのりズムに添そうて、暮さなければ夫の心しんじよう情じようを荒らす。妻も大方おおかたのことは生徒になりたる態度をもつて、夫に對待たいじすべし。

(8) 親や親類と折おり合あひの悪い夫

いつそ親や親類に悪く云いわれても仕方がない。まあなるだけ主人の気のやすまるよう遠とおのいて、身しんぺん辺べんの平和を守るか（この際さい扶養ふようの責任あらば、それだけは物質だけでも果はたすべし）、さもなくば、妻は身をもつて円満えんまんに尽つくし、親、親類に夫の折おり合あひ悪あしき部分ぶぶんを補おぎなうべし。

(9) 失業している夫

妻の身の自分が内職でもして家計を立てようと努力とともに、失業状態にある夫の心は、とかくひがみ易くなっていますから、妻は平常より寧ろ夫を敬愛する態度に出でよ。夫は心明るく次の職業を探す勇気に向えましょう。

(10) 大酒家の夫

何かほかの嗜好物に転換させるか、もし万不可能な時は、妻自身大酒をのむか、但しはのみたる振りで酔っぱらって困らせて見せるか、知人の大酔家を、夫のしらふの時に夫の眼の前へ連れて来て見せしめにするかです。

(一) 移り気の夫

正当に警戒し、懇願して見ても駄目でしたら、妻自身も移り気の振りをして見せしめてやりなさい。それでもだめならあきらめるか、別れるか、どちらでも。

(二) 家にばかりいる夫

家にばかり夫がいて困るのでしたら、散歩や活動に妻が誘つて御覧なさい。嫌だと云つたら妻一人、夫を家へうつちやつて出て寂しがらせて御覧なさい。手のない家でしたら、盛んにお使いでもおたのみなさい。

(13) 家事に口出しすぎる夫

家事に口を出し過ぎる夫に困ったら、一週間位くらいそら病気をして、夫に家事万端ばんたんの世話をやかせ、負担に堪たえない経験をさせたらどうですか。お客の前などで、だしぬけにあれを出せ、時ならぬ時分じぶんにこれはないかと、喰たべものなど主婦の予算以外な注文をする夫をこらしめるためには、あとでその時の費用を誇張こちようし、また労力の超ちよう過かをしめすため、そら病気でもして見せます。

(14) 職業婦人の夫

職業婦人の夫はそれこそ妻に思いやり深くなくてはいけません。

そして自身も職業を持つならば、退^ひけ時刻の早い方が遅く帰る方
 を待ちうける用意をして置きなさい。朝、出かけの早い方を遅い
 方が送つて上げるのも同様です。この際昔風な夫、妻、の觀念を
 除き、同じ労力を分^{わか}つて家事を分担する友、恋人同志であり同時
 に普通の夫婦以上、妻は夫に与える所の多い女性として尊敬して、
 夫たる男性の手に適するかぎり家事の労力なども妻の助けとなる
 べきです。但^{ただ}し呉^{くれぐれ}々も妻は己の職業に慢^{まんしん}心して大切にして貰^{もら}
 う夫に狎^なれ、かりにも威張^{いば}つたり増^{ぞうちよう}長^{ちよう}せぬこと。月並^{いましめ}の戒^め
 ようなれど、余程^{よほど}の心がけなくてははいわゆる女性の浅^{あさ}はかより、
 この弊^{へい}に陥^{おちい}り易^{やす}かるべし。

青空文庫情報

底本：「愛よ、愛」パサージュ叢書、メタローグ

1999（平成11）年5月8日第1刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十四卷」冬樹社

1977（昭和52）年5月15日初版第1刷発行

初出：「婦人界」

1933（昭和8）年9月号

※表題は底本では、「良人《おっと》教育十四種」となっています。

※「仕末《しまつ》」の表記について、底本は、原文を尊重した

としています。

入力：門田裕志

校正：土屋隆

2004年3月30日作成

2013年10月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

良人教育十四種

岡本かの子

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>